

デジタル印刷料金の掲載にあたって

一般財団法人経済調査会

調査研究部 **第二調査研究室**

はじめに

当会では、印刷物制作費に関わる積算体系や料金水準を調査し、その結果を「積算資料印刷料金」(以下、本誌)に掲載しております。

印刷費積算に関連する印刷物の制作工程は、デジタル化をキーワードとして、主に印刷前工程(プリプレス)で技術革新を遂げてきました。本誌では、これらの技術革新に合わせて市場調査を実施し、新たな積算体系と料金水準を掲載してきました。

近年では、プリプレスのデジタル化により、印刷工程(紙等の被印刷体に印刷する工程:プレス)について、刷版(原稿の情報を画線部と非画線部で表した原版。インキをつけ、これを紙などの被印刷物上に転移させるための媒体を指す)を必要とせず、データから直接印刷物を出力する「デジタル印刷」の利用が徐々に増えています。

当会では、デジタル印刷に関する情報収集を2003年(平成15年)より開始し、積算体系と料金水準に関する市場調査を2008年(平成20年)より本格的に取り組みました。

未だ普及段階にあるデジタル印刷について、前号(2013年版)で、当会の調査結果からみるデジタル印刷における見積りの考え方についてご報告しましたが、本号(2014年版)にて限定的な適用ではありますが、デジタル印刷料金を掲載しました。本稿ではその概要をお知らせします。具体的な掲載内容は、本誌のP191~198をご覧ください。

デジタル印刷料金について

1) デジタル印刷機と印刷物

デジタル印刷機にはさまざまな種類があり、これらの設備を活用して、さまざまな印刷物が制作されています。デジタル印刷機の種類や利用分野、制作される印刷物についての概要は、前文「デジタル印刷技術の現状とその活用方法」(株式会社バリューマシーンインターナショナル 取締役副社長 宮本泰夫氏)をご参照ください。

本号で掲載したデジタル印刷料金が対象としている設備および印刷物は以下のとおりです。

○設備: トナー式 枚葉給紙タイプ A3寸伸び
以下 65ppm以上の印刷速度

※寸伸びは、JIS紙加工上寸法に対し、印刷や製本加工のための余白を含んだサイズを意味する

※ppm (page per minute) は、1分間に出力できる最大の枚数を表す単位で、デジタル印刷機の出力速度を評価する指標の一つとして利用されている

○印刷物: ①仕上がり規格A4・A5の端物印刷物(チラシ・リーフレット等)

②仕上がり規格A4で30ページ程度までのページ物印刷物(冊子等)

2) 基本的な積算体系

デジタル印刷は、データから直接印刷物を出力する方式となりますので、印刷物の原稿はデータ化されていることが前提となります。

それを踏まえて、デジタル印刷の制作工程と積算体系の関係を次頁の図のとおりとします。

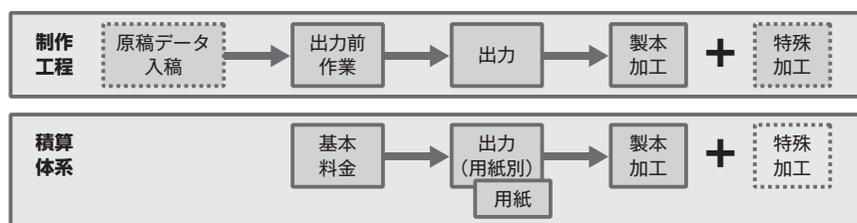


図 デジタル印刷における制作工程と積算体系

このため、デジタル印刷料金の算出方法は、「①基本料金+②出力+③用紙価格+④製本加工」となります。各項目のポイントは以下のとおりです。

①基本料金

基本料金は、発注者が提供する原稿データをデジタル印刷機で出力するための準備作業に関わる料金で、原稿データのチェックや印刷用データへの変換作業、面付等が含まれます。なお、原稿データの作成および修正作業は別料金となります。

料金の単位は、印刷物一種類当たり、ページ当たり等の考え方がありますが、本号では、印刷物一種類当たり（一式）で掲載しています。

②出力（印刷）

出力（印刷）は、デジタル印刷機により出力（印刷）する工程に関わる料金です。

本号では、トナー式 枚葉給紙タイプ A3寸伸び以下 65ppm以上の印刷速度のデジタル印刷機を対象としていますので、出力サイズはA3、A4（いずれも寸伸び）となっています。

出力については、オフセット印刷と同じように用紙を別とした考え方、プリンター出力のように用紙を込みとした考え方がありますが、本号では、用紙を別として掲載しています。なお、料金は、出力規格の総出力枚数により算出します。

③用紙価格

用紙価格は、デジタル印刷機の出力（印刷）で使用する用紙に関わる料金です。

印刷で使用される用紙にはさまざまな種類があります。本号では、限定的ではありますが、上質紙、上質コート紙、アート紙、色上質紙を掲載しています。

用紙価格は、オフセット印刷の積算のように、全判をベースとはせず、出力サイズの用紙1枚当たりの単価を使用して算出します。なお、数量の算出時に、予備紙を加算します。

④製本加工

製本加工は、デジタル印刷機で出力した用紙を印刷物仕様で指定された形状に仕上げる工程に関わる料金です。

製本加工の種類は豊富で、要望に合わせてさまざまな加工が可能ですが、本号では、中綴じ、無線綴じ（くるみ製本）、「ホチキス止め」「化粧裁ち」「折り加工」の5種類を掲載しています。

最後に

本号では、本誌において初めてデジタル印刷料金を掲載しましたが、これまで述べてきたとおり、その適用範囲は限定的となっています。デジタル印刷料金の積算に当たっては、掲載内容の条件を十分にご確認ください。なお、今後、デジタル印刷の普及が進む中で、積算体系や算出方法が変わる可能性が高いことにもご留意ください。

当会では、デジタル印刷について、より実態に即した積算体系と各項目の料金を掲載していくために、今後も継続的に調査を実施してまいります。